

サバ類の資源生態研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成7年度～)

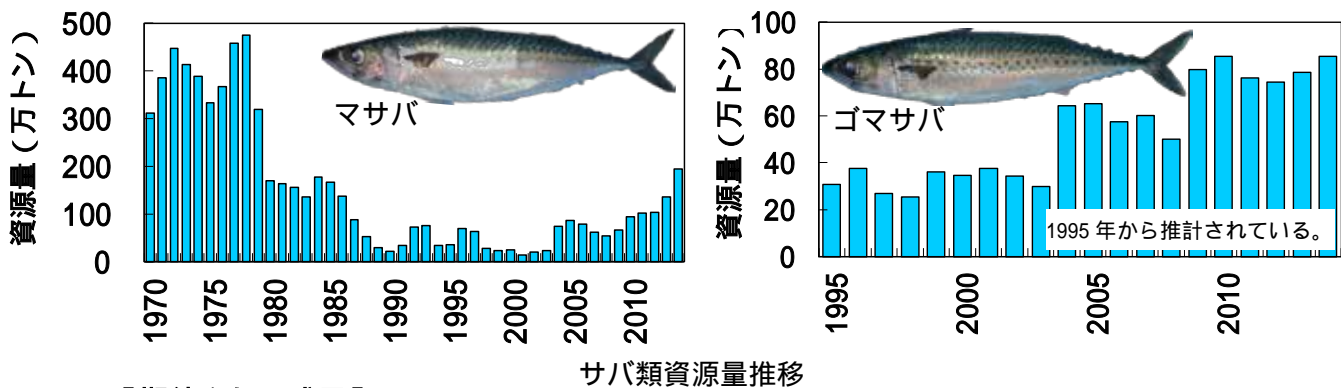
担当：資源海洋科 水越 麻仁

【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺で漁獲対象となる広域回遊魚については、漁業資源を持続的に活用することが求められています。そのため、関係機関が連携して資源動向を把握するために必要なデータを収集し、生物学的許容漁獲量の算定を行っています。マサバ、ゴマサバについても水揚量調査、体長測定、年齢査定、標本船調査等を定期的に実施し、(独)水産総合研究センターと連携して長期漁況予測を行っています。

【これまでに得られた成果】

- マサバ太平洋系群の資源量は1970年代には400万トン前後で推移していましたが、1980年代から減少し、2001年に15万トンに減少しました。その後2005年頃から増加傾向を示し、2014年7月の資源量は194万トンと推定されています。
- 資源の水準を示す、産卵可能な親魚量は41万トンで B_{limit} *45万トン以下であることから、大中型まき網漁業では、休漁等の資源回復措置が実施されています。
* B_{limit} :この数字を下回ると資源回復措置が必要となる。
- ゴマサバ太平洋系群の資源量は、1995年から2003年頃まで30万トン前後で推移していましたが、2004年以降増加しました。2014年現在の資源量は86万トンと推定され、近年は横ばい傾向にあります。
- 資源の水準を示す、産卵可能な親魚量は42万トンで B_{limit} *3.8万トンを上回っており、マサバのような資源回復措置の必要はありません。
- 水産技術研究所では、伊豆諸島海域におけるサバ類の来遊量や漁場等の長期漁況予測を、2014年8月と12月に行い県内関係者へ情報提供しました。



【期待される成果】

- 収集した各種データから資源動向を把握することで、資源の持続的利用が図られます。
- 漁況予測を関係者へ提供することで、漁業者の経営の安定が図られます。

【今後の計画】

- 回復傾向にあるマサバ資源の動向、漁況を把握していきます。
- 標本船調査、海況データ等を基に、サバ漁業の短期漁況予測手法について検討します。

(作成 平成27年4月)